



虹のかけ橋

第42号/平成30年9月

兵庫県立但馬やまびこの郷

<http://www.t-yamabiko.asago.hyogo.jp/>

不登校数の「見える化」とは…

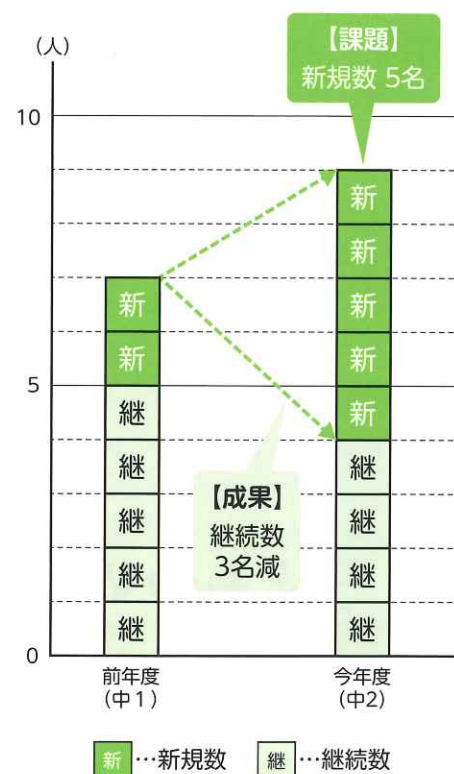
不登校の取組として真っ先に思いつくのは、不登校児童生徒への個別支援だと思います。しかし、家庭訪問や放課後支援など、日々の努力にもかかわらず不登校数が一向に減らない…、そんな経験はないでしょうか。実際、個別支援だけでは不登校数を減らすことは難しいのです。

右はA中学校（2年生）における不登校数の推移をグラフ化したものです。一見すると全体数が増えているため、不登校支援の取組が報われていないように見えます。しかし、グラフを「継続数（前年度も不登校であった生徒数）」と「新規数（今年度新たに不登校になった生徒数）」に分ける（見える化する）ことにより、成果と課題がはっきりと見えてきます。

2年生になり不登校生徒の全体数は増えているものの、個別支援の成果が実り、前年度まで不登校だった生徒が3名復帰しているのです。一方で、新たに不登校になった生徒が5名います。つまり、「新規の不登校生徒をつくり出さないこと」がこの学校（学年）の課題なのです。

不登校数を減少させる取組には、「継続数を減少させる取組」と「新規数を抑制する取組」があり、それぞれ対象や主たる取組が異なります。上記のA中学校では、「新規数を抑制する取組」が重要となります。

A中学校における不登校数の推移



新規数を抑制する取組(不登校の未然防止・初期対応)

対象は、全ての児童生徒となります。子どもたちの居場所づくりや絆づくりを大切にしたい学級経営、分かりやすい授業づくりなどが不登校の未然防止につながります。また、「遅刻が増えた」「表情が暗くなった」など、少しでも兆しが見える子への初期対応も大切です。

不登校数を「見える化」することにより、課題を明確にしながら取り組むことが、不登校数を減らすことにつながるのです。

「子どものWell-being」を育むピア・サポート

立命館大学大学院教職研究科 教授 菱田 準子

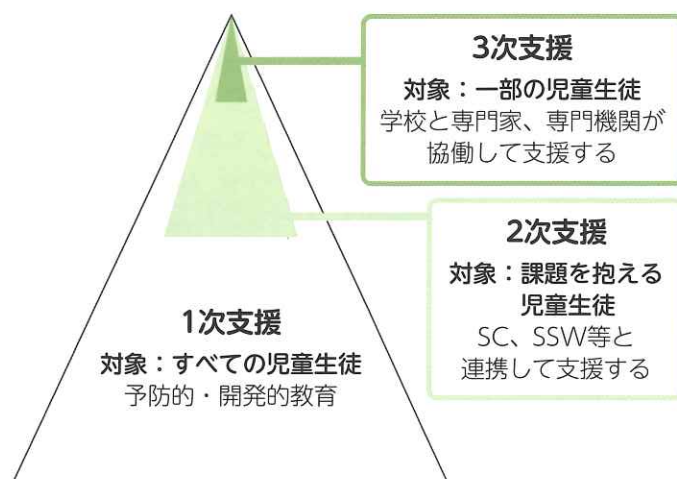
1 人生 100 年時代は生き方改革

「2007 年生まれの子どもの 2 人に 1 人は 107 歳まで生きる！」これはリンダ・グラットン博士が著書「LIFE SHIFT」の中で述べていることです。政府ではリンダ・グラットン博士を交えて「人生 100 年」人づくり改革が始まりました。博士は、人生 100 年時代には有形資産だけでなく、無形資産①生産資産：知識、スキル、②活性資産：健康、良質な関係性、③変身資産：多様ネットワーク、開かれた体験が必要だと述べています。私はこれらの無形資産を方向付けるものが必要だと考えています。それが「生き方改革」です。

教育課程企画特別部会論点整理「2. 新しい学習指導要領等が目指す姿」（文科省 2015）において、「一人一人が幸福な人生を自ら創り出していくためには、情意面や態度面について、自己の感情や行動を統制する能力や、よりよい生活や人間関係を自主的に生成する態度等を育むことが重要」と述べられています。では、一人一人が幸福な人生を自ら創り出す生き方とはどんな生き方なのでしょう。それは、社会に参画し、役に立っているやりがいを実感し、社会の活力を生み出そうとする生き方ではないかと私は考えています。まさに、仲間が仲間を支援するピア・サポートが目指している生き方と合致しています。

2 子どもの Well-being を育む 1 次支援

さて、昨今学校現場をめぐるのは、不登校やいじめ問題などすべての子どもたちが安心して学べる状況にはありません。貧困の問題や虐待問題など、家庭が抱える困難な状況の中で学校に通っ



(図) マルチレベル・アプローチ(包括的生徒指導)

ている子どもたちも増えています。マルチレベル・アプローチ(図)の2次支援や3次支援の必要な子どもたちが増えているのが現状です。教育相談の担当者やスクールカウンセラー(SC)、スクールソーシャルワーカー(SSW)、医療機関等につなぐケースも増え、チーム学校が機能することに期待するところです。しかしながら、図に示すように2次支援や3次支援の必要な子どもにとっても1次支援は大切なものです。

(1) 基本的自尊感情を育む

学校は、「〇〇ができた」「△△が得意」など、他者と比較しながらほめられて大きくなる「すごい自分」(社会的自尊感情)を育むことが得意です。教師や大人の“条件付きの愛”が注がれます。しかし、どんな時も支えになる「ありのままの自分」(基本的自尊感情)が十分に育っていない子どもたちは愛情飢餓状態で、「すごい自分」を支える力が脆弱です。社会に参画し、役に立っているやりがいを感じることは難しいです。

そこで、温かな共有体験を通して、この基本的自尊感情を育むことに着目しましょう。ペア学習やグループ学習等、他者との共有体験を通して「できた」「わかった」の喜びや、「むずかしいなあ」「できない」の困った気持ち、「ありがとう」「頑張れたね」と感謝や達成感を分かち合える機会を作っていくのです。思いやる気持ちやかけがえのない自分の存在を他者との協働を通して育むと、安心して学べる環境もできてきます。そのために教師がそうした意図を持って授業や様々な活動を仕組むことが前提となります。

(2) すでにある自分の内なる力を見出し、他者貢献に活かす

誰もが誰かの役に立ちたいと思っています。2次支援や3次支援の必要な子どもにとってもそれは同じです。そのためには、自分自身をまずは自分で支える力、自分が困ったときに自分を支える力が必要です。但馬やまびこの郷公開講座(5月25日)では「自分が困難な時にどのようにして乗り越えてきたのか」を聞いた他のメンバーが、話し手の強みや良い、素晴らしいと感じた点を付箋に書いてフィードバックする演習を実施しました。自分で気づいていた点も気づいていなかった点も他者から認められる体験は喜びを伴い、自尊感情を高めることに役立ちます。また、「価値観ババ抜き」という演習を通して、自分が大切にしている価値観を見出しました。自分の大切にしている価値観との出会いは誇らしいものです。そして、他者が大切にしている価値観への畏敬の念も生まれます。そうした内なる自分や他者と出会い、自分を肯定的に受け止めながら、誰かのために役立つ活動(ピア・サポート)を行うことで、他者から感謝される体験に対して感謝の念が生まれます。2次支援や3次支援の必要な子どもたちが、他の子どもたちと共にピア・サポート活動を行うことで、Well-beingが高まる事例を見ることができます。

人生100年時代をどのように生きていくのかが自分自身に、家族に、地域にと、あらゆるコミュニティに問われます。前述の研修で実施した演習を学校でも是非実施してほしいと思います。

※ Well-being…現代的ソーシャルサービスの達成目標として、個人の権利や自己実現が保障され、身体的、精神的、社会的に良好な状態にあることを意味する概念。

◆◆筆者紹介(菱田 準子/ひしだ じゅんこ)◆◆

立命館大学大学院教職研究科教授。

公立中学校教諭をスタートに、指導主事や学校長を経験。学級・学年集団づくりに取り組み、ピア・サポートプログラムと出会う。日本ピア・サポート学会の常任理事を務めながら、ピア・サポートの普及・啓発を行っている。また、みんなが“幸福”であることを願って、月刊学校教育相談でポジティブ心理学を2017年から連載中。

《資格》ピア・サポートコーディネーター、レジリエンス・トレーニング講師、Tree of Life 講師、エグゼクティブメンター、学校心理士、臨床心理士



不登校を未然に防ぐ取組

意識調査に基づいたPDCAサイクル

国立教育政策研究所の「魅力ある学校づくり調査研究事業」（平成 26 ～ 27 年度）において、子どもたちの意識調査をもとに、「取組を点検し、今後の取組を見直し、実行する」というPDCAサイクルを指定地域の学校で2年間実施した結果、不登校数を減少させることができたとの報告がありました。このことから、不登校を減らすには新たな不登校を抑制する「未然防止」の取組が必要不可欠であることが分かります。

わかる喜びのある授業

授業は、学校生活の大半の時間を占めています。その授業が、子どもたちにとって楽しくわかりやすければ、「学校へ行きたい」という気持ちが自然に湧き出てくるはずです。また、授業において、子ども一人一人が活躍する場面があれば、自尊感情や自己肯定感が高まり、学級が安心して過ごせる居場所になります。教師は、子どもたちが学習内容を理解できるように指導方法や学習形態等を工夫する必要があります。

グループ・アプローチを取り入れた「絆づくり」

「ソーシャル・スキル・トレーニング」や「構成的グループ・エンカウンター」などのグループ・アプローチを活動に取り入れ、子ども同士のつながりを築くことによって、対人関係の不安を軽減し、学校における好ましい人間関係を築くことができます。

当所では、金山健一教授（神戸親和女子大学）が考案された教材をもとに「やまびこおしゃべりすごろく」を作成し、子どもたちの出会いの場面などにおいて活用しています（図参照）。すごろくの質問に答えながら自己開示することが、自己理解や他者理解につながり、更にはその後の良好な人間関係につながっていきます。

やまびこおしゃべりすごろく①

スタート	好きなテレビ番組	好きな色	もう一回サイコロをふる	好きな季節	好きな動物	好きな食べ物	おしゃべり一回休み	この一年間でハッピーだったこと
小さい頃の夢	好きなキャラクター	びっくりしたこと	行ってみたいところ	最後のひと交代	今の気持ち	今、ほしいもの		好きなこと
宝くじが3億円当たった! どうする?				最近、食べたおいしい物	海と山どっちが好き?	好きな音楽		宝物
好きな場所						趣味		好きなアニメ
はまっていること	怖いもの	全員と握手	目の前に宇宙人が! どうする?	男子と女子、どっちになりたい?	5マス進む	一番のひと交代	好きな飲み物	肉と魚、どっちが好き?
								会いたい有名人

(図) やまびこおしゃべりすごろく

兵庫県立但馬やまびこの郷機関誌「虹のかけ橋」No.42 ●平成 30 年 9 月

●発行／兵庫県立但馬やまびこの郷

●〒669-5135 兵庫県朝来市山東町森字向山45-101 TEL (079)676-4724 FAX (079)676-4721

●URL <http://www.t-yamabiko.asago.hyogo.jp/>

リサイクル適性(A)

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

30 教① 2-001A4